

「お母さんの一日ってどんな感じなのだろうか。」

ある日、僕はゲームをしていて、ふとこう思いました。毎日夜遅くまで家事をしているお母さんの一日が気になったので、一日だけお母さんの生活を体験してみました。そして、この一日を通して、家事の大変さがわかったので、これからは積極的にお母さんの手伝いをしようと思いました。

お母さんの生活が気になったので、

「明日はお母さんと同じ生活をしてみよう。」

と思い、早速頼んでみました。

「明日はお母さんと同じ生活をさしてよ。」

そういうとお母さんは快く

「じゃあお願いね。」

と承諾してくれたので、その日はすぐに寝ました。そして、一日体験が始まりました。

お母さんの朝は早く、午前六時に起床します。そして、顔を洗ったり、着替えたりして一日が始まります。でも僕はアラームを六時にセットしても起きられず、六時二十分頃に起床してしまいました。お母さんはまず始めに昨日出た洗濯物を洗濯機に入れます。洗濯が終わるまでの間に僕の朝食を作ります。いつもならお母さんに丸投げですが、今日は全て一人で作りました。まず、昨日余った白米を電子レンジで温めました。おかずは冷蔵庫にウインナーがあっただけで、切り目を入れて焼きウインナーを作りました。人生で初めて作ったウインナーでしたが、とてもよい焼き加減でした。でも緑色の食べ物がなかったので、ミニトマトのヘタを取って、よく洗い、皿

にのせました。こうして朝ご飯ができました。自分で作った朝ごはんはいつもよりおいしく感じました。ペロリと完食した後は使った食器を洗いました。次にお父さんの弁当を作ります。弁当を作る機会は滅多にないので挑戦してみました。具材は朝作るのが上手くなつたウインナーと初めて作る卵焼きにしました。そうと決めたら早速食材を出して作り始めます。ウインナーは朝飯前に作れましたが、卵焼きはそうはいきませんでした。卵を巻く工程が難しく、少しつまずいてしまいました。そんな僕にお母さんは、

「冷静になればいけるよ。」

と言ってくれました。その言葉のおかげで少しすみが残ってしまったけど、原型を留めたまま卵焼きができました。最後に野菜を切ったら弁当箱に詰めて、水筒と一緒に保冷バックに入れて玄関に置いたらようやく弁当が完成しました。初めて弁当を作ったけど、悪くはなく、楽しかったです。ここまで終えても十分疲れてしまうけど、まだまだ家事があります。次は洗濯が終わったので洗濯物を干していきます。洗濯物は洗濯機の中が埋まるほどの量があり、

「骨が折れるぞ」

という思いで干してきました。ここで一旦家事が終わり、好きなことができると思ったらお母さんが

「昼ご飯の材料買いに行くよ。」

と言い、思わず

「え？」

と声が出てしまいました。そして、嫌々昼ご飯の材料を買いに行きました。しかし、自分で一日体験をすると決めたので買い物をするときも手伝うことを忘れずに材料を取りに行き、お母さんの負担を減らしました。買い物から帰ってくると、ちょうど昼ご飯を作り始める時間になってきました。しっかり手を洗い、今日は挑戦ということではほぼ全部一人で作りました。まず始めに具材を切っていくま

す。キャベツと豚肉を一口サイズに切り、ニンジンも細長く切りま

す。次に順番に食材を焼いていきます。最初に豚肉を入れ、色がついてきたらニンジンを入れます。ニンジンが柔らかくなってきたら、キャベツを投入し、ある程度食材をかき回したら主役の麺を入れていきます。麺がほぐれてきたらソースをかけ、いい感じに火が通ったら仕上げにカツオ節をふりかけて完成です。そして、お母さんに味の感想を聞きました。感想は、

「初めてなのに美味しい。」

でした。見た目も美味しそうにできたし、お母さんの言葉が励みになったので、また今度なにか作ろうと思いました。

午後になると特に家事もなく暇でしたが、せっかくなので家の掃除をしました。リビングにあるいらぬものを捨てて、物の配置を変えたり、自分の部屋の掃除もしたりしました。他には、新聞紙を束ねたり、リサイクルするペットボトルも洗ったりしました。掃除が終わった頃には、干していた洗濯物が乾いたので取り込んでたってみました。ここまでやってようやく時間が少し空いたのでゲームをした後、風呂を洗いました。そして、今日の晩ご飯は外食なので、準備をして出かけました。美味しいご飯を食べて帰ってきたらすっかり夜になっていました。家族全員風呂に入り終わったら、今日は時間が余っていたので洗濯物を洗い、干して就寝して一日を終えました。

今日一日、お母さんの手伝いをしたけど、お母さんの一日の大変さを知りました。それと同時に、毎日早起きして家事や料理をするお母さんは偉大で、自慢のお母さんだと思いました。そして、お父さんが家に帰ってきて、すぐに味の感想を聞いてみました。

「弁当の味どうだった？」
と聞くと、

「美味しかったよ。」

と言ってくれて、とてもうれしい気持ちになりました。毎日この量の家事をやるとなると、終わったときにやりがいを感じたけれど、

やはり毎日となると骨が折れてしまいそうです。でも、この一日で家事の大変さがわかったので、これからは積極的に家事をしようと思いました。